

先生方の紹介

町歌制定協力者 **岡 弘道 氏**

昭和8年のお生まれで、幼少時代を松江市でお過ごしになりました。
昭和32年、慶應義塾大学文学部をご卒業後、東京藝術大学にご入学になり、昭和34年、日本放送協会へご入局され、昭和63年にご退職されるまでの間、幼児向け音楽番組「うたのえほん」の初代ディレクターに始まり、オペラ、バレエ、シンフォニー等クラシック音楽番組の企画制作一筋に歩まれ、放送された番組は延べ1万本を超えると聞いております。

また、我が国最高の登竜門「日本音楽コンクール」の運営業務並びに放送をご担当され、1万5千件に及ぶ演奏現場へ密着し、若い人材の育成にご尽力されました。これまでの間、文化庁芸術祭優秀賞をはじめとする多くの賞を受賞されております。

平成10年からは慶應義塾大学文学部講師をお務めになり、現在は、くらしき作陽大学音楽学部の客員教授をはじめとする多くの公職をお勤めのかたわら、講演、執筆、合唱指揮など社会貢献活動にご活躍中であります。

平成4年1月には、合併前の旧仁多町において、岡先生のご紹介により「真理ヨシコ ファミリーコンサート」を盛大に開催させていただきました経過もございます。

作詩者 **片岡 輝 氏**

昭和8年、中国大連市にお生まれになり、幼少期を北京市でお過ごしになりました。昭和32年、慶應義塾大学法学部をご卒業後、ラジオ東京、現在の東京放送(TBS)にご入社になられ、6年間の在職を経て、フリーの作家として、主に教育と子どもを対象としたジャンルで執筆・評論活動を展開されております。

代表作として、「とんでったバナナ」、「ぼくのクレヨン」、「グリーングリーン」などの子ども向けの歌や「ひとつの朝」、「わがマイルストーン」、「希望へのエアメール」などの合唱曲の詩や、第11回国民文化祭とやま96委嘱合唱曲、平成12年(2000年)富山国民体育大会イメージソング「あいの風吹く」など多くの楽曲の作詩をされております。

また、著作として、日本の芸術各界のリーダーとの対談集「挑発としての音楽」をはじめ、「日本人と感性」、「性と死について話そう」、「ほんとは」、「どうして」などの著書や絵本を数多く出版されております。

現在は、東京家政大学学長、財団法人文民教育協会理事、子どもの文化研究所「子どもの文化」編集長など公職も数多くお務めであります。

作曲者 **西村 朗 氏**

昭和28年大阪市にお生まれになり、東京藝術大学、同大学院をご卒業後、西洋の現代作曲技法はもちろん、在学中から強い関心を抱いておられたアジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観などから導いたオーケストラ楽曲を中心に多数の作品を発表して成功を収められました。

- 日本音楽コンクール(NHK・毎日新聞社共催)作曲部門第1位
- エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞(ベルギー)
- ルイジ・ダッラピッコラ作曲賞(イタリア)
- 尾高賞3回受賞(NHK交響楽団)
- 京都音楽賞「実践部門賞」
- 第36回サントリー音楽賞(平成16年)
- 毎日芸術賞(平成17年)

この輝かしいご受賞歴が物語るとおり、今や、現代日本を代表する、優れた作曲家の一人として、高い評価を受けていらっしゃいます。

近年は海外においても、「ウルティマ現代音楽祭」、「ノルマンディの10月 音楽祭」、「ウィーン・モテルン音楽祭」、「ワルシャワの秋 現代音楽祭」などで、西村先生の作品が盛んに演奏されています。

このような内外にわたるご活躍に注目が集まり、西村先生は、平成19年度の「武満徹作曲賞」審査員に選ばれました。これは、世界の現代作曲家の中から、厳正にただ一人選ばれるもので、日本人としては二人目になります。

現在、東京音楽大学教授、社団法人日本作曲家協議会理事。

NHK・FM毎週日曜日18時「現代の音楽」レギュラー出演者。

奥出雲町町歌

片岡 輝 作詩
西村 朗 作曲

雲湧き出ずる峰峰を
縫つて流れる斐伊川の
滝の響きに人は聞く
神話の息吹きいまもなお
深い緑に抱かれし
わが郷その名奥出雲

大地の焔たららの火
村下の誇り玉鋼
流れる汗に人は知る
先人たちの営みを
燃える夕日に照らされし
わが郷その名奥出雲

野山彩る石楠花の花
綾なし競う京もみじ
いつか季節は巡り来て
大地の恵みたわに実る
歴史と明日永久に歌わん
わが郷その名奥出雲

「永久に歌わん わが郷その名奥出雲」 奥出雲町町歌発表会

町では昨年八月に奥出雲町町歌検討委員会を設置し、奥出雲町町歌の制定に取り組んできました。が、このたび完成し三月三日、カールチャープラザ仁多において発表会が盛大に開催されました。委員会では、神話とロマンに彩られた本町を象徴する町歌を制定するため、松江市出身で、NHK OBの岡弘道先生(くらしき作陽大学音楽学部客員教授)に国内で著名な先生の選考を依頼し、作詩を「グリーングリーン」、「ひとつの朝」等多くの作品を手がけられた東京家政大学学長の片岡輝先生に、作曲をサントリー音楽賞、



挨拶される岡先生

毎日芸術賞など数々の受賞に輝く、現代日本を代表する作曲家、東京音楽大学教授西村朗先生にお願いしました。先生方には昨年九月に遠路を奥出雲町へおいで頂き、町内の名所、旧跡等を巡り町歌のイメージづくりをして頂きました。発表会では感謝状の贈呈、町長の式辞に続いて、岡先生、片岡先生から「この町歌は奥出雲の神話の時代、中世、現在・未来を綴った歌で、町民の皆様の思いを込めてできあがりしました。『歌われてこそ歌』、心の支え、奥出雲町の未来を築く力として歌い続けてほしい。この歌が愛されることを願っています」と町歌制定に関わるエピソードを交えて挨拶がありました。また当日都合により欠席された西村先生からは町歌完成を祝うメッセージが届けられ、岡先生から披露がありました。

初披露されました。そしてファイナルでは、岡先生にも参加して頂き、出席者全員で声高らかに合唱しました。力強い澄み切った歌声は会場一杯に響き渡り、全員で町歌の完成を祝いました。今後この町歌は様々な機会に歌われ、未永く歌い継がれます。



感謝状を受け取る片岡先生

町歌は仁多、横田両中学校の生徒、コーラスグループ、コーレエコーしゃくなげ、コミセン合唱グループ「稲田姫」の皆さんによる